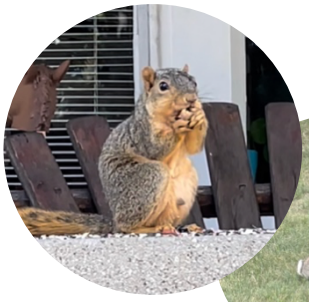
アメリカ　フィンドレー大学への協定留学　月例報告書（8 月分）

留学先大学：フィンドレー大学

氏名：飯島麗奈

〇はじめに

私は、８月８日に羽田空港から渡米し、約１２時間のフライトを経てデトロイト空港に降り立ちました。離陸前に乗客のトラブルにより１時間半離陸が遅れ、デトロイト空港到着後もフィンドレー大学からのお迎えが遅れ、また他の学生をピックアップするのにもかなりの時間を要し、大学に着いたのは深夜１時ごろで、みんな疲れ果てていました。大学に着くと現地の数人の学生と教師が私たちを暖かく迎え入れていただき、ちょっとしたお菓子や水などを用意していてくれて、嬉しかったのと同時に本当にこれから始まる緊張感も感じました。他の日本の大学から来た留学生を合わせると日本人留学生は１８人でした。



〇フィンドレー市、大学について

フィンドレー市は電車もバスも通ってない小さな市です。車を持っていないと生活し難い街です。気候は日本の８月より低く、特に朝晩は 17 度近くまで下がります。昼間は日差しが強く暖かく感じ、夜の 20 時ごろまでは明るいままです。湿度が低いので、日中 30℃近くいっても日本のような外に出られない暑さではない反面、最初来たころは乾燥がとてもひどく感じました。野生のリスやウサギがよくキャンパス内にいるのでとても癒されます。

〇諸手続きについて

アメリカに来てからはじめに、一番複雑で苦労したのが授業料や寮費、食費などの支払いについてでした。例年担当してくださっていたフィンドレー大学の担当者が異動になったことで、現地の教員も混乱していた中だったらしく、現地の日本人教員２人がサポートしてくださりましたが、それでもすぐに支払いができない状態で、そのやりとりや対応に追われてなかなか落ち着かない生活が１０日ほど続きました。同じような状態の留学生の皆で情報を共有し合ったりできたのが何よりの救いでした。

〇ウェルカムウィーク

８日からの一週間は留学生や新一年生のためのオリエンテーションが詰め込まれていました。Orientation Activity やパーティなどが開かれて多くの一年生と一緒に参加し、一番ネイティブの人たちと関われる機会でもあり、刺激的だったのと同時にとてもハードな 1 週間でした。新入生のために様々な歓迎会が催されていたのがとても新鮮でした。（私の代はコロナで入学式も無かったことも新鮮に感じた理由の一つでもありますが、、）とにかくその規模の大きさと、体感した歓迎ムードが日本との違いをとても感じカルチャーショックでもありました。

〇ハウスについて

私のハウスはシェアハウスのようなタイプで、二人部屋が６室、リビングルームが２室、バスルームが 1 階に 1 つと２階に 2 つ、キッチンとランドリールームがあり、合計 12 人が住んでいる大きな家です。私のルームメイトは現地のアメリカ人の 3 年生で、とても優しい人です。この家には同じ日本人留学生が私含めて４人居り、とても仲良くなりました。アメリカ人は低い温度を好むのか、冷房が 72,73℉(約 22℃)設定なので室内がとても寒くてなかなか慣れませんし、毛布が無いと夜は寒いのが少し困っています。

〇食事について

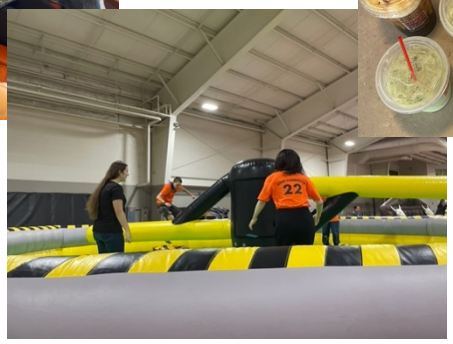
大学に Henderson というダイニングホールがあり、そこで朝昼晩食べることができます。ミールプランによってダイニングホールで食べられる回数が決まっています。ダイニングホールには毎回メニューが変わるおかずや主食が並んでいるコーナーや、サラダコーナーなどがあり、またチーズバーガーはいつでもあります。自分で食べたいものを選ぶことができます。もちろん口に合わないものもありました。他にはテイクアウトコーナーがあり、いつでも持ち帰ることができるので、朝時間がない時などはとても助かります。大学周辺には、バーガーショップなどのファストフード店やコーヒーショップなどがありますが、徒歩だと 15 分～30 分ぐらいかかります。ここに来て１ヶ月もまだ経っていないですが、既に日本食が恋しいです。ここで出てくるライスはやはり日本のお米とは違うので、正直美味しくありません。もっと日本食を持ってくるべきだったなと後悔しています。

〇休日

８月中にあった休日では、ルームメイトにスタバや買い物に連れてってもらったり、他の留学生やハウスメイトと大学外のご飯屋さんに出かけたりして、充実した休日を送れました。一人で部屋にいると寂しいので何かしら外に出る予定を入れるべきだなと感じました。

▼▶ハウスメイトと Starbucks と Burger Shop

▲DUNKIN’



▲Welcome Activity のひとつ